

11課

挫折

6月13日

安息日午後

6月6日

暗証聖句

そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。(ローマ 5:3~5、新共同訳)

それだけではなく、患難をも喜んでい。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。(ローマ 5:3~5、口語訳)

今週の聖句

マルコ 4:35~41、マルコ 5:21~34、ローマ 5:3~5、ヨブ 19:23~27、ヨブ 23:8~12、ルカ 24:13~27、ローマ 8:18、28

今週のテーマ

ある夕方、1人の少女が家路を歩いていると、暗い嵐が吹きつけてきました。まだ道のりは長く、少女は足を速めました。1粒の雨粒が頬に落ちたかと思うと、あっという間にびしょ濡れになりました。少女は走って家に帰り、家のドアを勢いよく開けると、窓から見ていた父親が駆け寄って来ました。父親は少女の肩に毛布をかけながら尋ねました。「さっき雨の中におまえを見たよ。雷が光るたびに、なぜ走るのをやめて、空を見上げて笑っていたんだい」

「ああ、立ち止まって空を見上げていたのはね、神様が私の写真を撮ってくれていたんだもん!」と、少女は言いました。

人生の嵐がやって来るときや、神との関係に何らかの挫折を味わうとき、私たちはどう反応するでしょうか。雨が背中に打ちつける中、うつむくのでしょうか。それとも、神が天におられることを信じながら、見上げるのでしょうか。

今週は、私たちの最も大切な関係を弱めるためではなく、強めるために、人生の挫折をどう活用できるかを考えてみましょう。

イエスはその日、ガリラヤ湖の岸辺で大勢の人々に語りかけながら過ごされました。彼の言葉は人々の心に、長く、永遠に、響き続けるものでした。

夕方になると、イエスは弟子たちに語りかけ、一緒に旅に出ようと招かれました。「向こう岸に渡ろう」〔口語訳「向こう岸へ渡ろう」〕(マコ4:35)。イエスは、嵐が来ることを知っておられましたが、それでも出かけようと提案なさいました。最も親しい弟子たちに教えるべき人生の重要な教訓を持っておられたからです。その後どんなことが起きたのかは、みなさんもご存じでしょう。

問1 この嵐に関する記事(マコ4:35~41)を読み直してみてください。ここから、信仰についてどんな教訓が得られますか。

以下の点について考えてみましょう。

(1) イエスは、おそらく舟の中に一つしかなかった枕の上で眠りにつかれました。漁船には通常、枕が一つあり、船尾のかじ取り役がその上に座っていました。その船尾にいる人が舟を目的地まで導きました。つまりここでは、イエスが舟の「かじ取り役」でありながら、眠り込んでしまわれたのです。

(2) 弟子たち全員が舟に不慣れだったわけではありません。ペトロ(ペテロ)、ヤコブ、ヨハネは、経験豊富な漁師でした。彼らはガリラヤ湖をよく知っており、嵐への対処法も心得ていたはずで。

(3) この箇所は、イエスが眠っておられたという福音書唯一の記録です。弟子たちが人生で最悪の嵐に見舞われ、恐怖に震え、死ぬかもしれないと思っていたとき、イエスは船尾で眠っておられました。

(4) 危機に瀕した弟子たちの反応は、「私たちがどうなってもかまわないのですか」というものでした。彼らは、イエスの品性と自分たちへの愛を疑ったのです。私たちが困難な状況に直面するとき、しばしば同じ反応を示します。

絶望の真ただ中にいるとき、私たちは(弟子たちのように)自分を救おうとしたり、あるいは痛みや喪失感を感じているとき、私たちに対する神の愛や配慮を疑い始めたりすることがあります。私たちは、人間的視点から考えたり、見たりしたことに基づいて、神はこう行動されるはずだと思い込んでしまうのです。しかし、弟子たちの場合と同じように、人生の嵐の中でこそ、神は最も偉大な奇跡を起こすことができになります。たとえ、一見したところ、神が無関心であられるかのよう
に思え、そのことが私たちには納得できないときでも、神は常に誠実なお方です。神は私たちと共に嵐の中におられ、私たちが静められない嵐を、静めることが可能です。

【参考】英語テキストにある文

What is your usual response when you face a storm in your life? How do such moments impact your relationship with God? When have you lived out 2 Corinthians 5:7?

人生の嵐に直面したとき、あなたは普段どのように対処しますか。そんな時は、あなたと神との関係にどんな影響を与えますか。あなたはいつ、Ⅱコリント 5:7 の教えを実践しましたか。

75

マコ 4:35～41 (新共同訳)

4:35 その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。

4:36 そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。

4:37 激しい突風が起り、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。

4:38 しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。

4:39 イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。

4:40 イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じていないのか。」

4:41 弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。

Ⅱコリ 5:7 (新共同訳)

5:7 目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。

マコ 4:35～41 (口語訳)

4:35 さてその日、夕方になると、イエスは弟子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた。

4:36 そこで、彼らは群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。

4:37 すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。

4:38 ところが、イエス自身は、艫の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしたちもおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。

4:39 イエスは起きあがって風をしかり、海におかて、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。

4:40 イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか。」

4:41 彼らは恐れおののいて、互に言った、「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」。

Ⅱコリ 5:7 (口語訳)

5:7 わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いているのである。

月曜日 6月8日 良くなれ

ガリラヤ湖の岸边にいる群衆を想像してみてください。朝早くからイエスの帰りを待ちわびていた人々は、イエスが舟から降りられると、彼の周りに押し寄せ、カファルナウムの村まであとを追って行きました。すると突然、会堂長のヤイロがあらわれ、娘を癒やすために来てくださいとイエスに懇願しました。

群衆の中に、長年病気に苦しんでいる 1 人の女がいました。彼女は医者にかかって全財産を使い果たしたものの、「何の役にも立たず、ますます悪くなるだけ」〔口語訳「なんのかいもないばかりか、かえってますます悪くなる一方」〕(マコ 5:26)でした。彼女はガリラヤの偉大なこの人のことを聞き、希望を胸に、わずかな力を振り絞って、その朝、家を出て群衆に加わったのです。彼女がイエスに少しずつ近づくにつれ、群衆の圧力が息苦しく感じられます。そして押し合いへし合いの末、ついにイエスが見えました。彼女は自らをこう励まします。「この方の服にでも触れればいやしていただける」〔口語訳「せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろう」〕(同 5:28)。

問2 マルコ 5:21~34 を読んでください。どんなことが起こりましたか。私たちはそこから何を学ぶことができるでしょうか。

この出来事は、病人や孤独な人、普段は群衆の中で見過ごされている人々に対するイエスの配慮と憐れみを示しています。その日、多くの人が群衆に紛れてイエスのそばに押し寄せていましたが、切実に必要としていた祝福を受けるために、イエスに触れようと意図的に手を伸ばしたのは、1人だけでした。しかし、彼女が癒やされたのは、触れたことによってではありませんでした。彼女が良くなったのは、信仰によってでした(マル 5:34)。「救い主は不注意な群衆が偶然さわったのと、信仰をもってさわったのとを区別することがおできになった」(『希望への光』847 ページ、『各時代の希望』第 36 章)。イエスの服に特別な力があつたわけではありません。この女性を癒やしたのは、彼女の信仰と、イエスに触れようと手を伸ばした彼女の選択だったのです。

その弱々しい女は、苦しみと悩みの中、あの朝、家で寝床にとどまっていることもできたでしょう。しかし、彼女はそうせず、癒やされることを願って、意図的に、そして希望をもってイエスを探し求めました。遠くからイエスを見るだけでは満足せず、彼女はイエスに近づいたのです。

イエスは今日、同じことをしなさいと私たちを招いておられます。イエスは、こう言われるのです。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる」〔口語訳「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」〕(マタ 11:28, 29)。

【参考】英語テキストにある文

How did this woman in such great need demonstrate the ideas in Romans 5:3-5? What might this look like in your life?

これほどまでに苦境に立たされたこの女性は、ローマ 5:3~5 に記されている教えをどのように体現したのでしょうか。あなたの生活の中で、それはどのようにあらわれるのでしょうか。

76

マコ 5:21~34 (新共同訳)

5:21 イエスが舟に乗って再び向こう岸に渡られると、大勢の群衆がそばに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。

5:22 会堂長の一人でヤイロという名の人が来て、イエスを見ると足もとにひれ伏して、

5:23 しきりに願った。「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」

5:24 そこで、イエスはヤイロと一緒に出かけられて行かれた。大勢の群衆も、イエスに従い、押し迫って来た。

5:25 さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。

5:26 多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。

5:27 イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。

5:28 「この方の服にでも触れればいよしといただける」と思ったからである。

5:29 すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体を感じた。

5:30 イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。

5:31 そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」

5:32 しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。

マコ 5:21~34 (口語訳)

5:21 イエスがまた舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆がみもとに集まってきた。イエスは海べにおられた。

5:22 そこへ、会堂司のひとりであるヤイロという者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、

5:23 しきりに願って言った、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手を置いてやってください!」。

5:24 そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。大ぜいの群衆もイエスに押し迫りながら、ついて行った。

5:25 さてここに、十二年間も長血をわずらっている女がいた。

5:26 多くの医者にかかって、さんざん苦しめられ、その持ち物をみな費してしまっていたが、なんのかいもないばかりか、かえってますます悪くなる一方であった。

5:27 この女がイエスのことを聞いて、群衆の中にまぎれ込み、うしろから、み衣にさわった。

5:28 それは、せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろうと、思っていたからである。

5:29 すると、血の元がすぐにかわき、女は病気がなおったことを、その身に感じた。

5:30 イエスはすぐ、自分の内から力が出て行ったことに気づかれて、群衆の中で振り向き、「わたしの着物にさわったのはだれか」と言われた。

5:31 そこで弟子たちが言った、「ごらんのとおり、群衆があなたに押し迫っていますのに、だれがさわったかと、おっしゃるのですか。」

5:32 しかし、イエスはさわった者を見つけようとして、見まわしておられた。

5:33 女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。

5:34 イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らさない。」

マタ 11:28、29 (新共同訳)

11:28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

11:29 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの轡を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。

ロマ 5:3~5 (新共同訳)

5:3 そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、

5:4 忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。

5:5 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

5:33 その女は自分の身に起こったことを知って、恐れおののきながら進み出て、みまえにひれ伏して、すべてありのままを申し上げた。

5:34 イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっきりなあって、達者でいなさい」。

マタ 11:28、29 (口語訳)

11:28 すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

11:29 わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

ロマ 5:3~5 (口語訳)

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、

5:4 忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを、知っているからである。

5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

火曜日 6月9日 ヨブ

聖書の中で挫折といえ、最初に思い浮かぶのはヨブかもしれません。彼は全財産を失っただけでなく(ヨブ 1:14~17)、子どもたちも(同 1:18、19)、健康も失いました(同 2:7)。そしてヨブの妻は、神を呪って死ぬよう、彼を説得しようとして(同 2:9)。

しばらくして、ヨブのところに3人の友人がやって来て、彼の傍らに座りました。彼らはヨブの姿に衝撃を受け、言葉を失ったまま7日間、ヨブのそばに座っていました(ヨブ 2:13)。やがて口を開いた彼らは、なぜこのような災難が降りかかったのか、人間的な理由を述べようとしていましたが、その結果、意図せずしてヨブの苦しみを増大させてしまいました。3人の友人はヨブを責め、彼には悔い改めるべき隠れた罪があるに違いないと言い(同 8、11、15章)、「ああ、これが不正を行った者の住まい/これが神を知らぬ者のいた所か」〔口語訳「まことに、悪しき者のすまいはこのようであり、神を知らない者の所はこのようである」(同 18:21)とさえ言ったのでした。

問3 ヨブはどのように答えましたか。ヨブ記 19:23~27、23:8~12 を読んでください。

ヨブは、自分を取り巻く悲劇的な出来事や、それを理解できないという事実にもかかわらず、忠実であり続けました。彼は揺るぎなく、神を責めたり、呪ったりしませんでした。それどころか、神を責めなくなったときに、彼はこう言い切りました。「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ」〔口語訳「わたしは裸で母の胎を出た。また裸でかしこに帰ろう。主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」〕(ヨブ 1:21)。

私たちもまた、同じ戦いのただ中に生きています。サタンは、愛に満ちた神の姿を歪めようとする計画の一環として、痛み、苦しみ、喪失、困難によって私たちを悩まします。そのような時、私たちは二つの反応のどちらかを選ぶことができます。神を責め、拒絶するか、それとも力の限り神により頼むかです。戦いは私たちの周りで激しく繰り広げられていますが、永遠の観点から見れば、現在の苦難はほんの一次的な試練にすぎないことを忘れてはなりません(IIコリ 4:16~18)。今ここで目にしていること以上に、全体像にはずっと多くの部分があり、信じる者にとっての大きな挑戦の一つは、最も暗い時期でさえも神を信頼することです。神はさまざまな方法で、その愛の現実を私たちに明らかにしてこられました。私たちは、たとえ神の愛を今は感じられなくても、神の愛は真実であるというこの重要な真理に、しっかりとより頼む必要があります。

【参考】英語テキストにある文

If you are in the middle of a difficult time right now, run to God. Take your Bible and a notebook, and go outside to be with God in nature. Copy down Romans 5:3-5, and reflect on the different messages in this passage, believing that God's love and care for you is the surest and most stable factor in your life.

もし今、あなたが困難な状況にあるなら、神のもとへ駆け寄りましょう。聖書とノートを持って、外に出て自然の中で神と共に過ごしましょう。ローマ 5:3~5 を書き写し、この箇所に入められた様々なメッセージについて深く考えてみてください。神の愛とご配慮こそが、あなたの人生において最も確かな、揺るぎない支えであると信じましょう。

77

ヨブ 1:13~22 (新共同訳)

1:13 ヨブの息子、娘が、長兄の家で宴会を開いていた日のことである。

1:14-15 ヨブのもとに、一人の召使いが報告に来た。「御報告いたします。わたしの子どもが、牛に畑を耕させ、その傍らでろばに草を食べさせておりますと、シェバ人が襲いかかり、略奪していきました。

ヨブ 1:13~22 (口語訳)

1:13 ある日ヨブのむすこ、娘たちが第一の兄の家で食事をし、酒を飲んでいたとき、

1:14 使者がヨブのもとに来て言った、「牛が耕し、ろばがそのかたわらで草を食べていると、

1:15 シバびとが襲ってきて、これを奪い、つるぎをもってしもべたちを打ち殺しま

牧童たちは切り殺され、わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」

1:16 彼が話し終らないうちに、また一人が来て言った。「御報告いたします。天から神の火が降って、羊も羊飼も焼けて死んでしまいました。わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」

1:17 彼が話し終らないうちに、また一人来て言った。「御報告いたします。カルデア人が三部隊に分かれてらくだの群れを襲い、奪っていきました。牧童たちは切り殺され、わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」

1:18 彼が話し終らないうちに、更にもう一人来て言った。「御報告いたします。御長男のお宅で、御子息、御息女の皆様が宴会を開いておられました。」

1:19 すると、荒野の方から大風が来て四方から吹きつけ、家は倒れ、若い方々は死んでしまわれました。わたしひとりだけ逃げのびて参りました。」

1:20 ヨブは立ち上がり、衣を裂き、髪をそり落とし、地にひれ伏して言った。

1:21 「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。」

1:22 このような時にも、ヨブは神を非難することなく、罪を犯さなかった。

ヨブ 2:7~13 (新共同訳)

2:7 サタンは主の前から出て行った。サタンはヨブに手を下し、頭のとっぺんから足の裏までひどい皮膚病にかからせた。

2:8 ヨブは灰の中に座り、素焼きのかけらで体中をかきむしった。

2:9 彼の妻は、「どこまでも無垢にいるのですか。神を呪って、死ぬ方がましでしょう」と言ったが、

2:10 ヨブは答えた。「お前まで愚かなことを言うのか。わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただくのではないか。」このようになって、彼は唇をもって罪を犯すことをしなかった。

した。わたしはただひとりのがれて、あなたに告げるために来ました」。

1:16 彼がなお語っているうちに、またひとりが来て言った、「神の火が天から下って、羊およびしもべたちを焼き滅ぼしました。わたしはただひとりのがれて、あなたに告げるために来ました」。

1:17 彼がなお語っているうちに、またひとりが来て言った、「カルデアびとが三組に分れて来て、らくだを襲ってこれを奪い、つるぎをもってしもべたちを打ち殺しました。わたしはただひとりのがれて、あなたに告げるために来ました」。

1:18 彼がなお語っているうちに、またひとりが来て言った、「あなたのむすこ、娘たちが第一の兄の家で食事をし、酒を飲んでいると、

1:19 荒野の方から大風が吹いてきて、家の四すみを撃ったので、あの若い人たちの上につぶれ落ちて、皆死にました。わたしはただひとりのがれて、あなたに告げるために来ました」。

1:20 このときヨブは起き上がり、上着を裂き、頭をそり、地に伏して拝し、

1:21 そして言った、「わたしは裸で母の胎を出た。また裸でかきこに帰ろう。主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」。

1:22 すべてこの事においてヨブは罪を犯さず、また神に向かって愚かなことを言わなかった。

ヨブ 2:7~13 (口語訳)

2:7 サタンは主の前から出て行って、ヨブを撃ち、その足の裏から頭の頂まで、いやな腫物をもって彼を悩ました。

2:8 ヨブは陶器の破片を取り、それで自分の身をかき、灰の中にすわった。

2:9 時にその妻は彼に言った、「あなたはなおも堅く保って、自分を全うするのですか。神をのろって死になさい」。

2:10 しかしヨブは彼女に言った、「あなたの語ることは愚かな女の語るのと同じだ。われわれは神から幸をうけるのだから、災をも、うけるべきではないか」。すべてこの事においてヨブはそのくちびるをもって罪を犯さなかった。

2:11 さて、ヨブと親しいテマン人エリファズ、シュア人ビルダド、ナアマ人ツォファルの三人は、ヨブにふりかかった災難の一部始終を聞くと、見舞い慰めようと相談して、それぞれの国からやって来た。

2:12 遠くからヨブを見ると、それと見分けられないほどの姿になっていたので、嘆きの声をあげ、衣を裂き、天に向かって塵を振りまき、頭にかぶった。

2:13 彼らは七日七晩、ヨブと共に地面に座っていたが、その激しい苦痛を見ると、話しかけることもできなかった。

※ヨブ 8、11、15 章はお手持ちの聖書をお読みください、

ヨブ 18:21 (新共同訳)

18:21 ああ、これが不正を行った者の住まい/これが神を知らぬ者のいた所かと。

ヨブ 19:23~27 (新共同訳)

19:23 どうか/わたしの言葉が書き留められるように/碑文として刻まれるように。

19:24 たがねで岩に刻まれ、鉛で黒々と記され/いつまでも残るように。

19:25 わたしは知っている/わたしを贖う方は生きておられ/ついには塵の上に立たれるであろう。

19:26 この皮膚が損なわれようとも/この身をもって/わたしは神を仰ぎ見るであろう。

19:27 このわたしが仰ぎ見る/ほかならぬこの目で見る。腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る。

ヨブ 23:8~12 (新共同訳)

23:8 だが、東に行ってもその方はおられず/西に行っても見定められない。

23:9 北にひそんでおられて、とらえることはできず/南に身を覆っておられて、見いだせない。

23:10 しかし、神はわたしの歩む道を/知

2:11 時に、ヨブの三人の友がこのすべての災のヨブに臨んだのを聞いて、めいめい自分の所から尋ねて来た。すなわちテマンびとエリパズ、シュヒびとビルダド、ナアマびとゾパルである。彼らはヨブをいたわり、慰めようとして、たがいに約束してきたのである。

2:12 彼らは目をあげて遠方から見たが、彼のヨブであることを認めがたいほどであったので、声をあげて泣き、めいめい自分の上着を裂き、天に向かって、ちりをうちあげ、自分たちの頭の上にまき散らした。

2:13 こうして七日七夜、彼と共に地に座していて、ひと言も彼に話しかける者がなかった。彼の苦しみの非常に大きいのを見たからである。

ヨブ 18:21 (口語訳)

18:21 まことに、悪しき者のすまいはこのようであり、神を知らない者の所はこのようである」。

ヨブ 19:23~27 (口語訳)

19:23 どうか、わたしの言葉が、書きとめられるように。どうか、わたしの言葉が、書物にしるされるように。

19:24 鉄の筆と鉛をもつて、ながく岩に刻みつけられるように。

19:25 わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。

19:26 わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れて神を見るであろう。

19:27 しかもわたしの味方として見るであろう。わたしの見る者はこれ以外のものではない。わたしの心はこれを望んでこがれる。

ヨブ 23:8~12 (口語訳)

23:8 見よ、わたしが進んでも、彼を見ない。退いても、彼を認めることができない。

23:9 左の方に尋ねても、会うことができない。右の方に向かってても、見るができない。

23:10 しかし彼はわたしの歩む道を知つ

っておられるはずだ。わたしを試してくだされば/金のようにであることが分かるはずだ。

23:11 わたしの足はその方に従って歩み/その道を守って、離れたことはない。

23:12 その唇が与えた命令に背かず/その口が語った言葉を胸に納めた。

Ⅱコリ 4:16~18 (新共同訳)

4:16 だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。

4:17 わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。

4:18 わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

ロマ 5:3~5 (新共同訳)

5:3 そればかりでなく、苦難をも誇りとしめます。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、

5:4 忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。

5:5 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

ておられる。彼がわたしを試みられるとき、わたしは金のように出て来るであろう。

23:11 わたしの足は彼の歩みに堅く従った。わたしは彼の道を守って離れなかった。

23:12 わたしは彼のくちびるの命令にそむかず、その口の言葉をわたしの胸にたくわえた。

Ⅱコリ 4:16~18 (口語訳)

4:16 だから、わたしたちは落胆しない。たとえわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。

4:17 なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。

4:18 わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。

ロマ 5:3~5 (口語訳)

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、

5:4 忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを、知っているからである。

5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

水曜日 6月10日 エマオへの道

2人の弟子にとって、この数週間は非常に緊張した日々でした。彼らの頭の中では、その間に経験した出来事や会話が繰り返し思い出されました。エルサレムへの勝利の入城と宮清め。二階の広間での過越の食事。ゲツセマネでのイエスの祈り。ユダの醜い裏切り。裁判、嘲笑、殴打。十字架にかけられたイエスの傷だらけの体、そして午後の空が真っ暗になる中、息を引き取られる前に語られた最後の言葉。神殿の幕が激しく裂ける音。開かれた義人たちの墓。安息日の前に、イエスの体を十字架からそっと降ろし、墓に安置したこと。そして、弟子たちの心に湧きあがった混乱、落胆、疑問。「自分たちは、どうしてこんなにも思い違いをしてい

たのだろうか」

イエスの弟子たちは、失望し、落胆し、混乱しました。これは彼らの人生における最大の挫折でした。彼らが気づいていなかったのは、これが史上最も偉大な物語のほんの一瞬にすぎなかったということです。弟子の中の2人がエマオへの道を歩いていると、イエスがあらわれ、彼らと共に歩まれました。

問4 ルカ 24:13~27 の会話読み、二つの異なる視点——2人の弟子の視点とイエスの視点——について考えてみましょう。

目が開かれると、2人の弟子は、道中で起こった出来事を伝えるためにエルサレムへ急いで戻りました(ルカ 24:33~35)。イエスが来て、彼らの真ん中に立たれると、彼らは恐れおののきました。イエスが彼らに尋ねられた次の質問に注目してください。「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか」〔口語訳「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起こすのか」〕(同 24:38)

これは、現代の私たちに対するイエスのメッセージでもあります。私たちはあまりにもしばしば、イエスが私たちの苦しみの中を共に歩んでおられることを忘れてしまいます。あまりにもしばしば、イエスに気づくことができません。あまりにもしばしば、この物語にはもっと多くの部分があることを忘れてしまいます。あまりにもしばしば、イエスが私たちの人生をしっかりと御手に握っておられることを忘れ、不安を感じ、心に疑いを抱くことを許してしまいます。そして、あまりにもしばしば、人生で実際に何が起きているのか、イエスよりも自分のほうがよくわかっていると思いついてしまいます(ルカ 24:18)。

聖書は、私たちクリスチャンが困難や挫折にどう対処すべきかについて、すばらしい助言を与えています。時間を取って、次の短い聖句を学んでみてください(ロマ 8:28、フィリ〔ピリ〕 4:4~13、ヤコ 1:2~4、12、Ⅱコリ 12:9、10)。

【参考】英語テキストにはつづきがあります。

As part of your study, write down three key messages you can share with someone who is facing setbacks right now. Keep 2 Corinthians 1:4 in mind.

あなたの学びの一環として、現在困難に直面している人に伝えたい重要なメッセージを3つ書き出してください。Ⅱコリント 1:4 を念頭に置いてください。

78

ルカ 24:13~40 (新共同訳)

24:13 ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、

24:14 この一切の出来事について話し合っていた。

24:15 話し合い論じ合っていると、イエ

ルカ 24:13~40 (口語訳)

24:13 この日、ふたりの弟子が、エルサレムから七マイルばかり離れたエマオという村へ行きながら、

24:14 このいっさいの出来事について互に語り合っていた。

24:15 語り合い論じ合っていると、イエ

ス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。

24:16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。

24:17 イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。

24:18 その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在しているながら、この数日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」

24:19 イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。

24:20 それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。

24:21 わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。

24:22 ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、

24:23 遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。

24:24 仲間の者が何人か墓へ行って見たのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」

24:25 そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、

24:26 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」

24:27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明され

スご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。

24:16 しかし、彼らの目がさえぎられて、イエスを認めることができなかった。

24:17 イエスは彼らに言われた、「歩きながら互に語り合っているその話は、なんのことなのか」。彼らは悲しそうな顔をして立ちどまった。

24:18 そのひとりのクレオパという者が、答えて言った、「あなたはエルサレムに泊まっていながら、あなただけが、この都でこのごろ起こったことをご存じないのですか。」

24:19 「それは、どんなことか」と言われると、彼らは言った、「ナザレのイエスのことです。あのかたは、神とすべての民衆との前で、わざにも言葉にも力ある預言者でしたが、

24:20 祭司長たちや役人たちが、死刑に処するために引き渡し、十字架につけたのです。

24:21 わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました。しかもその上に、この事が起ってから、きょうが三日目なのです。

24:22 ところが、わたしたちの仲間である数人の女が、わたしたちを驚かせました。というのは、彼らが朝早く墓に行きますと、

24:23 イエスのからだが見当たらないので、帰ってきましたが、そのとき御使が現れて、『イエスは生きておられる』と告げたと申すのです。

24:24 それで、わたしたちの仲間が数人、墓に行ってみますと、果して女たちが言ったとおりで、イエスは見当たりませんでした。」

24:25 そこでイエスが言われた、「ああ、愚かで心のにぶいため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。

24:26 キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか。」

24:27 こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、

た。

24:28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。

24:29 二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。

24:30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

24:31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

24:32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

24:33 そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、

24:34 本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。

24:35 二人も、道で起こったことや、パンを裂いて下さったときにイエスだと分かった次第を話した。

24:36 こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

24:37 彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。

24:38 そこで、イエスは言われた。「なぜ、うるたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。」

24:39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えたとおり、わたしにはそれがある。」

24:40 こう言って、イエスは手と足をお見せになった。

ロマ 8:28 (新共同訳)

8:28 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

説きあかされた。

24:28 それから、彼らは行こうとしていた村に近づいたが、イエスがなお先へ進み行かれる様子であった。

24:29 そこで、しいて引き止めて言った、「わたしたちと一緒に泊まり下さい。もう夕暮になっており、日はや傾いています」。イエスは、彼らと共に泊まるために、家にはいられた。

24:30 一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、

24:31 彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。

24:32 彼らは互に言った、「道々お話しになったとき、また聖書を説き明して下さったとき、お互の心が内に燃えたではないか」。

24:33 そして、すぐに立ってエルサレムに帰って見ると、十一弟子とその仲間が集まっていて、

24:34 「主は、ほんとうによみがえって、シモンに現れなされた」と言っていた。

24:35 そこでふたりの者は、途中であったことや、パンをおさきになる様子でイエスだとわかったことなどを話した。

24:36 こう話していると、イエスが彼らの中にお立ちになった。〔そして「やすかれ」と言われた。〕

24:37 彼らは恐れ驚いて、霊を見ているのだと思った。

24:38 そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。」

24:39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見えたとおり、わたしにはあるのだ。」

24:40 [こう言って、手と足とをお見せになった。]

ロマ 8:28 (口語訳)

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っています。

フィリ 4:4~13 (新共同訳)

4:4 主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。

4:5 あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。

4:6 どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。

4:7 そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

4:8 終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値するものがあれば、それを心に留めなさい。

4:9 わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

4:10 さて、あなたがたがわたしへの心遣いを、ついにまた表してくれたことを、わたしは主において非常に喜びました。今までは思いはあっても、それを表す機会がなかったのでしょう。

4:11 物欲しさにこう言っているのではありません。わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。

4:12 貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。

4:13 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能で

ヤコ 1:2~4 (新共同訳)

1:2 わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。

1:3 信仰が試されることで忍耐が生じる

ピリ 4:4~13 (口語訳)

4:4 あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。

4:5 あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。

4:6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

4:7 そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

4:8 最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。

4:9 あなたがたが、わたしから学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことは、これを実行しなさい。そうすれば、平和の神が、あなたがたと共にいますであろう。

4:10 さて、わたしが主にあって大いに喜んでるのは、わたしを思う心が、あなたがたに今またついに芽ばえてきたことである。実は、あなたがたは、わたしのことを心にかけてくれてはいたが、よい機会がなかったのである。

4:11 わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。

4:12 わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。

4:13 わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができ

ヤコ 1:2~4 (口語訳)

1:2 わたしの兄弟たちよ。あなたがたが、いろいろな試練に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。

1:3 あなたがたの知っているとお

と、あなたがたは知っています。

1:4 あくまでも忍耐しなさい。そうすれば、完全に申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります。

ヤコ 1:12 (新共同訳)

1:12 試練を耐え忍ぶ人は幸いです。その人は適格者と認められ、神を愛する人々に約束された命の冠をいただくからです。

Ⅱコリ 12:9、10 (新共同訳)

12:9 すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

12:10 それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。

Ⅱコリ 1:4 (新共同訳)

1:4 神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。

仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである。

1:4 だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい。

ヤコ 1:12 (口語訳)

1:12 試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう。

Ⅱコリ 12:9、10 (口語訳)

12:9 ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。

12:10 だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。

Ⅱコリ 1:4 (口語訳)

1:4 神は、いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さり、また、わたしたち自身も、神に慰めていただくその慰めをもって、あらゆる患難の中にある人々を慰めることができるようにして下さるのである。

木曜日 6月11日 イエスに会う

落ち込んだとき、「イエスに会えたらいいのになあ」と思ったことはありませんか。次のような夢の中にいるあなたを想像してみてください。

「わたしは、絶望のあまり顔に手を当てて、次のように考えていたようである。もし、イエスが、地上におられるならば、わたしは彼のところに行って、彼の足もとに身を投げて、わたしのすべての苦しみを話すだろう。彼は、わたしから去って行かれないだろう。彼は、わたしを憐れまれるだろう。わたしは、いつも彼を愛し、彼に仕えるだろう。すると、ちょうどその時、戸が開いて、容姿の端整な人が入って来た。彼は、わたしを憐れみ、『あなたは、イエスに会いたいのですか。彼はここにおられる。もし会いたいならば、彼に会うことができます。持ち物をみな持って、わたしについて来なさい』と言った。

わたしは、言い表しようなない喜びをもって、これを聞いた。そして、わたしのわ

ずかな持ち物、大切にしていた飾り物をみな集めて、案内者について行った。彼はわたしを、急で、一見もろそうな階段につれて行った。わたしが階段をのぼり始めると、彼は、わたしが目まいを起こして倒れないように、いつも上を見ているようにと注意した。この急な階段をのぼっていた他の多くの人々は、上まで行かないうちに落ちてしまった。

われわれは、ついに、階段をのぼりつめて、戸の前に立った。……そこで彼は、戸を開き、わたしにその中へ入るように命じた。わたしは一瞬のうちに、イエスの前に立っていた。その美しい顔に間違いはなかった。このような慈愛と威厳に輝いた表情は、他のどんな人も持つことはできない。彼がわたしを見つめられたとき、わたしは、彼がわたしの生活のすべての環境と、わたしの心の思いも感じもみなよく知っておられることをすぐに知った。

わたしは、彼の、心の中を見通す視線に耐えられないと感じて、彼の目から逃れようとした。しかし、彼はほほえみながら近づいて来られ、彼の手をわたしの頭に置いて、『恐れてはならない』と言われた。彼の優しい声の響きは、これまでに経験したことのない幸福な思いで、わたしの心を感動させた。わたしはあまりにうれしくて、何も言えなかった。……わたしが、そこに力なく横たわっている間に、美しく栄光に輝く光景が、わたしの前を通り過ぎ、わたしは、天国の安らかさと平和に到達したように感じた。わたしは、ようやく力づいて立ち上がった。イエスは、なお、わたしに愛のまなぎしを向けておられた。わたしの心は、彼のほほえみを見て、喜びに満たされた。……

この夢は、わたしに希望を与えた。……そして、わたしの暗い心は、神に信頼することが、どんなにうるわしく、単純なことであるかが、だんだんわかってきた」(『初代文集』新装版 91～93 ページ)。

人生の挫折のただ中にあるとき、私たちはイエスと、彼が神の愛について明らかにしてくださることに注目する必要があります。

【参考】英語テキストにある文

What hope can you take for yourself, right now, from what is written in Romans 8:18, 28?

ローマ 8:18, 28 に書かれていることから、あなたは今、自分自身のためにどのような希望を見出すことができるでしょうか。

ロマ 8:18, 28 (新共同訳)

8:18 現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないといわたしは思います。

8:28 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

ロマ 8:18, 28 (口語訳)

8:18 わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

人生の困難に直面したときこそ、神に最もより頼む必要があります。今期を通じて探求してきた主題は、いずれも神との歩みを強く保ったり、活気づけたりするのに役立つものです。健康上の問題、経済的な困難、結婚生活の破綻、身近な人の死、あなたから喜びを奪う重荷など、挫折に直面したとの質問を考え、これまでに学んだことを振り返ってみてください。

話し合いのための質問

- ① あなたが直面している挫折、あるいは直面した挫折は、神に対するあなたの見方にどんな影響を与えましたか。どうすれば神の真の品性をよりはっきりと理解することができるでしょうか。
- ② あなたの人生において、神の声が敵の声よりも強くなるようにと最後に祈ったのはいつですか。盗人(サタン)は、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするために来ますが(ヨハ10:10)、神は豊かな命を与えてくださることを忘れないでください。
- ③ あなたの心は謙遜ですか。困難に直面しても、神が依然としてあなたの人生を支配し、導いておられると信じていますか。もしそうでないなら、神の慈みと愛に対する謙遜な信頼を、いかに身につけることができるでしょうか。
- ④ あなたは日々、神の言葉を抛り所にしていますか。困難な時期を通過するとき、神に対する最初の愛を再び燃え立たせてくださいと、神に求めましょう。
- ⑤ 「決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない」【口語訳「決してあなたを離れず、あなたを捨てない」】(ヘブ13:5)という約束を、神が守ってこられたことを信じて、祈りの中で弁護者である神に最後に頼ったのは、いつのことですか。
- ⑥ もしあなたの信仰が弱いなら、「[主よ、]信じます。信仰のないわたしをお助けください」【口語訳「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」】(マコ9:24)と祈ってください。あなたを落ち込ませる人たちの中ではなく、励ましてくれる人たちの中に身を置きましょう。
- ⑦ この世は、弱い人、無知な人、傷ついた人、打ちひしがれた人を必ずしも気にかけてくれません。「力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」【口語訳「わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」】(IIコリ12:9)という神のメッセージは、人生を根本的に変えることのできるものです。このメッセージを用いて励ますことのできる人を、思い浮かべてみてください。

話し合いのためのヒント： 私たちは今もなお、痛みと苦しみに満ちた罪深い世界に生きています。そして誰もが、人生のどこかで困難に直面し、それが神の愛を疑わせる原因になることもあります。聖書の登場人物が人生の挫折にどう対処したのかを振り返ると、そのような時の応じ方が神との歩みを強める機会になることがわかります。神は、変わることなく(マラ3:6)、その愛は変わりません。

ヨハ 10:10 (新共同訳)

10:10 盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。

ヘブ 13:5 (新共同訳)

13:5 金銭に執着しない生活をし、今持っているもので満足しなさい。神御自身、「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない」と言われました。

マコ 9:24 (新共同訳)

9:24 その子の父親はすぐに叫んだ。「信じます。信仰のないわたしをお助けください。」

Ⅱコリ 12:9 (新共同訳)

12:9 すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

ヨハ 10:10 (口語訳)

10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。

ヘブ 13:5 (口語訳)

13:5 金銭を愛することをしないで、自分の持っているもので満足しなさい。主は、「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」と言われた。

マコ 9:24 (口語訳)

9:24 その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください。」

Ⅱコリ 12:9 (口語訳)

12:9 ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。